

「ことぶき」に学ぶ 多様な主体と協働し 命と暮らしを守る 地域づくり

住民の「生きる」を支えるネットワークとは

「労働者のまち」から「福祉ニーズの高いまち」へと移り変わってきた横浜市の寿町では、住民が直面する課題に対し、さまざまな社会的実践が積み重ねられてきました。

「経済状況や生活状況が本人の健康にどのように繋がっているか？」

このような視点を持つことの大切さを「ことぶき」で学んだという医師の金子惇さん。

「多様性」と「共生社会」を考える土壌が寿町の軌跡のなかにあるという「ことぶき協働スペース」の徳永緑さん。

お二人のお話から、住民主体のまちづくりやどのような「地域へのまなざし」が大切なのかを学びたいと思います。

3²⁰²⁶
8
sun.

13:30 — 15:30

三鷹市市民協働センター2F 第1会議室



金子 惇さん

横浜市寿町健康福祉交流センター診療所 医師
横浜市立大学大学院データサイエンス研究科 准教授



徳永 緑さん

横浜市ことぶき協働スペース 施設長

進行役 加藤 明子

NPO法人みたか市民協働ネットワーク

対象：まちづくりに関心のある団体・個人

申込方法：右記QRコードからお申し込み（先着80名）

参加費：無料

主催：NPO法人みたか市民協働ネットワーク

お問合せ：三鷹市市民協働センター事務局

☎：0422-46-0048

